

おわりに

教頭 栗田 智晃

研究初年度には新型コロナウイルスが世界中に拡大し、現在はロシアによるウクライナ侵攻が今まきに行われているなど、変化の激しい社会、予想不可能な社会を肌で感じる世の中になっております。また、10年ほど前にオックスフォード大学の准教授が「10年後には今ある職業の半分はなくなる」と発表したことは記憶に新しく、世の中の様々な仕事がAIに置き換えられている現実から、社会の変化も加速しているように感じます。そんな中、日本の雇用スタイルも変化し、グローバルな流れに倣うように「終身雇用・年功序列型」から「ジョブ型雇用」に変化し始め、勤続年数や年齢に関わらず企業が職務や必要なスキルを明確にし、それらに適合した人材を採用し、より専門性ある人材を企業の戦略に合わせて配置できる制度に切り替わってきています。

これからの時代を担い生き抜く力を身に付けなければならない子どもたちに、私たちがどのような資質・能力を身に付けなければいけないかをしっかりと捉え、今後何を学び、どのようなことを身に付けていかなければいけないかを子どもたち自身に考えさせていくことがさらに重要になると思います。

本研究紀要には、キャリア教育に関する実態調査から導き出した子どもたちに身に付けさせたい4つの能力を、わかりやすい言葉「4つの $\textcircled{み}$ 」で意識させたことや、学校全体で「各教科等や行事」の2本柱で育成することを目的とし推進してきた足跡をまとめることができました。研究主任が中心となり、常に研究の方向性を示し軌道修正することで、職員が一丸となり本研究を進めていくことができました。また、職員の主体性や協働性が高まったことは大きな成果でありました。その一方で、課題も明確になり、本研究が2年間で終結するものではなく、次年度以降も授業や行事において可視化した「4つの $\textcircled{み}$ 」を活用し、キャリア教育を継続させ、子どもたちの自己の在り方や生き方を考えられる取組と指導を継続していきます。

5年後10年後、本校で学んだ子どもたちが、本研究で職員が意識して取り組んだ「4つの $\textcircled{み}$ 」を自分自身のキャリア形成をしていく中で生かしていってくださることを願います。

最後になりましたが、2年間の研究を推進していくにあたり、ご助言やご指導をいただきながらいつも研究の方向性を示唆していただいた千葉敬愛短期大学の反町京子先生、千葉市教育委員会指導主事をはじめ多くの先生方に感謝申し上げます。今後とも、本校の教育の発展のため、さらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。